

“鎌倉楽しむ会”

八丁堀・佃島・月島の散歩

- ◆ 集合場所：日比谷線八丁堀駅桜川公園方面 A2 改札口
- ◆ 開催日：2023年10月21日（土）
- ◆ 集合時間：9時30分
- ◆ 解散時間：15時30分頃予定／日比谷線 築地駅
- ◆ 参加費：500円（交通費・飲食代・拝顔入場料などは自己負担）
- ◆ 散歩コース

（集合）日比谷線・八丁堀駅・桜川公園方面出口改札

- 1、八丁堀・与力同心の屋敷跡
- 2、桜川公園
- 3、桜川屋上公園
- 4、鉄砲洲稻荷神社
- 5、南高橋
- 6、於岩田宮稻荷神社
- 7、中央大橋
- 8、石川島史料館
- 9、リバーシティ21
- 10、佃公園
- 11、石川島灯台跡
- 12、佃島渡船場跡
- 13、五世川柳・水谷緑亭句碑
- 14、住吉神社
- 15、佃小橋・大織の柱

16、月島もんじゃストリート —《 昼食 》—

- 17、西仲通地域安全センター
- 18、月島の渡し跡
- 19、勝鬨橋
- 20、海軍経理学校の碑
- 21、門跡橋の親柱
- 22、築地本願寺

（解散）日比谷線・築地駅

1、八丁堀・与力同心の屋敷跡



- * 江戸初期に埋め立てられた八丁堀の地は、はじめは寺町でした。寛永12年（1635）に江戸城下の拡張計画が行われ、玉泉寺だけを残して多くの寺は郊外に移転し、そこに与力・同心組屋敷の町が成立しました。その範囲は茅場町から八丁堀の一带に集中していました。
- * 八丁堀といえば捕物帳で有名な「八丁堀の旦那」と呼ばれた、江戸町奉行配下の与力・同心の町でした。与力は徳川家の直臣で、同心はその配下の侍衆です。着流しに羽織姿で懐手、帯に差した十手の朱房もいきな庶民の味方として人々の信頼を得ていました。
- * 初期には江戸町奉行・板倉勝重の配下として与力10人、同心50人から始まってのち、南北両町奉行が成立すると与力50人、同心280人と増加し、両町奉行所に分かれて勤務していました。与力は知行200石、屋敷は300～500坪、同心は30俵二人扶持で、100坪ほどの屋敷地でした。
- * これらの与力・同心たちは江戸の治安に活躍したのですが、生活費を得るため町民に屋敷地を貸す者も多く、与力で歌人の加藤枝直・千蔭父子や医者で歌人の井上文雄など文化人や学者を輩出した町としても知られています。





2、桜川公園



江戸時代の初期に（1600年頃）に、京橋川から隅田川につながる堀を作った。

その長さが八丁（872 疔）あり、八丁堀と呼ばれた。この堀のお陰で上方（京・大阪）から、酒や醤油や、いろいろな生活物資が運ばれ江戸の経済を支えた重要な堀であった。

近代に入り鉄道の発達や大型船の建造により、次第に活用されなくなり、昭和47年に埋め立てられ「桜川公園」となり、区民の癒しの公園となりました。

3. 桜川屋上公園



入口

公共施設の屋上ですが、ビル群に囲まれています。大きな立派な屋上庭園です。

街歩きにチョット立ち寄っても面白いと思いました。

平成5年に完成しました。



屋上庭園の一部

ゲートボール場があったり、お子さんの遊具もあり、隠れた癒しのスポットになっているように見受けられました。

4. 鉄砲洲稲荷神社



- * 社伝によると、創建は平安時代前期の承和8年（841）ということで、御祭神は稚産霊神、豊受比売神、宇迦之御魂神です。
- * 江戸時代は八丁堀の船入り堀に架かる稲荷橋近くの河岸地にあり、諸国の廻船が出入りする湊にあったことから、湊稲荷と呼ばれていた。
- * 明治元年（1868）、築地外人居留地が開設された関係で、現在地に移転してきた。
- * 現在の社殿は関東大震災後の昭和10年（1935）に造立されたもので、礼拝を行う「拝殿」、奉献を行う「幣殿」、祭神を安置する本殿が連続する権現造りになっています。
- * また、境内には「富士塚」がある。初めは江戸時代の寛政二年（1790）に始まり、富士山の溶岩を運んできて、5回の改装が行われ現在に至っている。高さは5.4 疔。洞穴は長谷川角行が修行したレプリカです。
- * 毎年、1月の第2日曜日の午前11時から水浴修行が行われ、氷柱を入れた水槽に、白い鉢巻と禪姿の氏子衆が浸かり、禊ぎ祓いと無病息災を祈願する祭礼が行われている。

5, 南高橋



- * 昭和7年（1931）、亀島川に架けられた鉄橋です。橋の本体には、旧両国橋の一部が使われている。
- * 旧両国橋は明治37年（1904）に隅田川に架けられた「三連トラス橋」で、関東大震災で被害を受けたため中央部分を南高橋に移設、部分補強を行って再利用を実現した。
- * 都内に現存する明治期の鉄骨橋梁としては、明治11年建造の旧弾正橋（現在の江東区の八幡橋）に次いで古いものとなっています。

6, 於岩稲荷田宮神社



- * 於岩稲荷田宮神社は、四代目鶴屋南北の戯曲「東海道四谷怪談」の主人公・お岩の伝承を持つ神社で、明治12年（1879）に創建されました。
- * 本殿横にある石鳥居は、明治30年、当時鎮座していた白狐社の社前に建てられたものです。神社は関東大震災や戦災で大きな被害を受けたが、石鳥居は被害を免れ、創建当時のままの姿を見せている。
- * その後、白狐社は鳥居正面奥の右手に移され、現在は、その位置には「百度石」が置かれている。大正3年（1911）、大阪浪花座で、お岩を演じた四代目市川右団次が奉納したもので、区内でもっとも古い百度石として知られる。全高127cmの花崗岩製で、台座の上には、田宮家の家紋である陰陽勾玉巴の丸石が置かれているほか、本体の正面には花形の杵と宝珠、そして、「百度石」の文字が刻まれている。

7, 中央大橋



- * 中央大橋は中央区内にある隅田川九橋のひとつで、佃地区の再開発に伴い平成5年（1993）に竣工しました。
- * 橋の中央部、上流側の橋脚上には、東京・隅田川とパリ・セーヌ川の友好を記念してパリ市から贈られた「メッセンジャーの像」（彫刻家オシップ・ザッキン作）が設置されています。

8, 石川島史料館



- * 嘉永6年（1853）、水戸藩主徳川斉昭（とくがわなりあき）による石川島造船所の創業から現在にいたるまでの歴史を、貴重な資料や当時を再現したジオラマ模型などで紹介する史料館です。
- * 造船所と深い関わりを持つ石川島や佃島の歴史・文化を伝える資料も展示されています。
- * 日本国内や世界各国につくられた建築や橋梁を映像で紹介するメモリアルサロンは見ごたえがあります。

9, リバーシティ 21



- * 佃の情緒ある街並みに隣接する旧石川島播磨重工業跡地には、21世紀にふさわしい快適な住環境を備えた「リバーシティ 21」が林立している。
- * 地上40階建ての超高層マンション群で、隅田川の景観と調和したデザインは高い評価を受けています。

10、佃公園



- * 隅田川沿いの桜や季節の花木、草花などを楽しみながら散策できる公園です。
- * 園内には佃掘りがあり、高層ビル群を背景にした佃の町並みを一望できる楽しい公園でもあります。
- * 下町の情緒あふれる風情と、近代的なビル群という好対照の眺めが公園に不思議な魅力を添えています。

11、石川島灯台跡



- * 慶応2年（1866）、石川島人足寄場奉行（いしかわじまにんそくよせばぶぎょう）の清水純騎は、隅田川の河口や品川沖を航行する船舶のため、人足寄場で生産した油絞りの益金を一部割り当て築いた灯台、これが石川島灯台の始まりです。
- * 六角二層の堂々とした灯台でした。
- * 佃公園を整備する時、園内に灯台のモニュメントを建設するとともに、護岸前面には、歌川広重がこの付近描いた、名所江戸百景「佃しま住吉之祭」や富士三十六景「東都佃沖」、東京明細図会の「佃島灯明台下汐干」の浮世絵のレリーフを設置して往時の風景を伝えています。

12、佃島渡船場跡

- * 佃島の猟師たちが日常的に使用する渡し舟として、正保（しょうほう）2年（1645）頃から手漕ぎで始まり、昭和2年（1927）、東京都は曳舟渡船とした。昭和39年（1964）佃大橋が完成し廃止になったが300年以上の歴史を記念した史跡です；

13、五世川柳・水谷緑亭句碑

- * 水谷緑亭は幼くして両親を失い、親類の猟師の家で育ち、商売に打ち込む傍らで川柳を勉強し、50才の時川柳界のトップである「五世川柳」となる。」
- * 句碑は 「和らかで かたく持ちたし 人ごころ」が刻まれています。

14. 住吉神社



- * 正保3年（1646）、摂津国西成郡佃村（現在の大阪市西淀川区）にあった「住吉神社」から分社して現在地に遷座しました。
- * 境内にある水盤舎の欄間部分には、佃島の昔をしのばせる浮き彫りの彫刻があり、石川島の灯台を背景にした、佃の渡しの風景などを鑑賞できます。
- * また、石造の鳥居に掲げられている陶製の扁額は区民有形文化財に登録されている。
- * この扁額は、有栖川宮熈仁親王（あすかのみや たかひとしんのう）の染筆によるもので「明治十五壬午歳六月三十日 住吉神社 一品熈仁親王」の文字が鮮明な青色に焼付けられています。
- * 扁額は木製が一般的だが、陶製の大作であることが注目され、工芸史的にも価値が高いとされています。

15. 佃小橋・大熈の柱

- * 佃小橋は、佃島の完成とともに架けられました。現在の橋は、昭和59年（1984）に架け替えられています。水位は隅田川に接する箇所にある住吉水門で調整されています。
- * 佃小橋の下には、住吉神社の本祭りで使われる「大熈の柱」が腐食防止のため、川底に埋められています。

16. 月島もんじゃストリート << 昼食 >>



- * 月島西仲通りは、道の両脇のアーケードに昔ながらの店舗が立ち並ぶ商店街です。
- * 「もんじゃ焼き」の専門店も多く、通称、「もんじゃストリート」と呼ばれています。
- * 近年、新しい街づくりが進むなか、通りの左右に広がる路地には鉢植えの花が並ぶなど、下町ならではの情緒を漂わせています。
- * <<昼食>>はもんじゃストリートの中でも名門中の名門“もん吉”さんでいただきます。

17. 西仲通地域安全センター

- * 月島警察署の前身にあたる京橋月島警察署が、大正10年（1921）頃に設置した巡査派出所のひとつで。西仲通りに面しています。
- * 現在の建物は、大正15年に改装したもので、平成19年（2007）までは、警視庁最古の現役交番として使用されてきました。
- * 現在は、地域安全活動の拠点として機能しており、昼間の時間帯を中心に警察官OBの「地域安全サポーター」が勤務して地域の安全維持に貢献しています。

18. 月島の渡し跡



- * 明治25年（1892）に鈴木由三郎が始めた私設の有料渡船場の跡です。
- * 月島（現在の月島三丁目）と南飯田（現在の築地七丁目）をつないでいた。明治34年からは東京市が運営を引き継ぎ、翌年から汽船曳船2隻による交互運転を開始、渡し賃も無料としました。月島地区は工業地帯としての発展に伴い乗客の増加に応え徹夜運転を行ったこともあるという。
- * 昭和15年（1940）、勝鬨橋が完成したことにより廃止されました。

19. 勝鬨橋



- * 橋を開くための機械などを鑑賞できる橋脚内ツアー（予約制）も実施しています。

- * 月島が工業地帯として発展するに伴い交通需要が増大したため、橋の建設が急務となって、当時の最先端技術を集めて建造されることになりました。
- * 勝鬨橋の竣工は昭和15年（1940）で、全長は246 ㍎・幅員 26 ㍎の双葉跳開橋（そうようちようかいきょう）で、完成時には東洋一の可動橋と呼ばれていました。
- * 当初は、一日5回跳開していたが船舶運航量の減少などの理由からその数は次第に減少し、現在は開閉を停止しています。
- * 平成19年（2007）6月には、「国内最大の可動支間を有する技術的完成度の高い構造物」などの評価により、国の重要文化財に指定されました。

20. 海軍経理学校の碑

- * 明治17年(1874)、芝に海軍会計学舎が設けられたのが海軍経理学校の始まりで明治21年には、この地に移転してきた。明治40年に海軍経理学校となったのです。
- * 戦後の海軍解体に伴い、昭和20年9月に同校は、約70年の歴史を閉じることとなりました。

21. 門跡柱の親柱

- * 昭和3年(1928)築地三丁目(現在の築地三・四丁目)と南小田原町一・二丁目(現在の築地六丁目)との間を流れる築地川南支川に、関東大震災後の震災復興橋梁として「門跡橋」は架橋されました。昭和62年(1986)に川は埋め立てられ橋は撤去してしまいます。その時の親柱です。

22. 築地本願寺

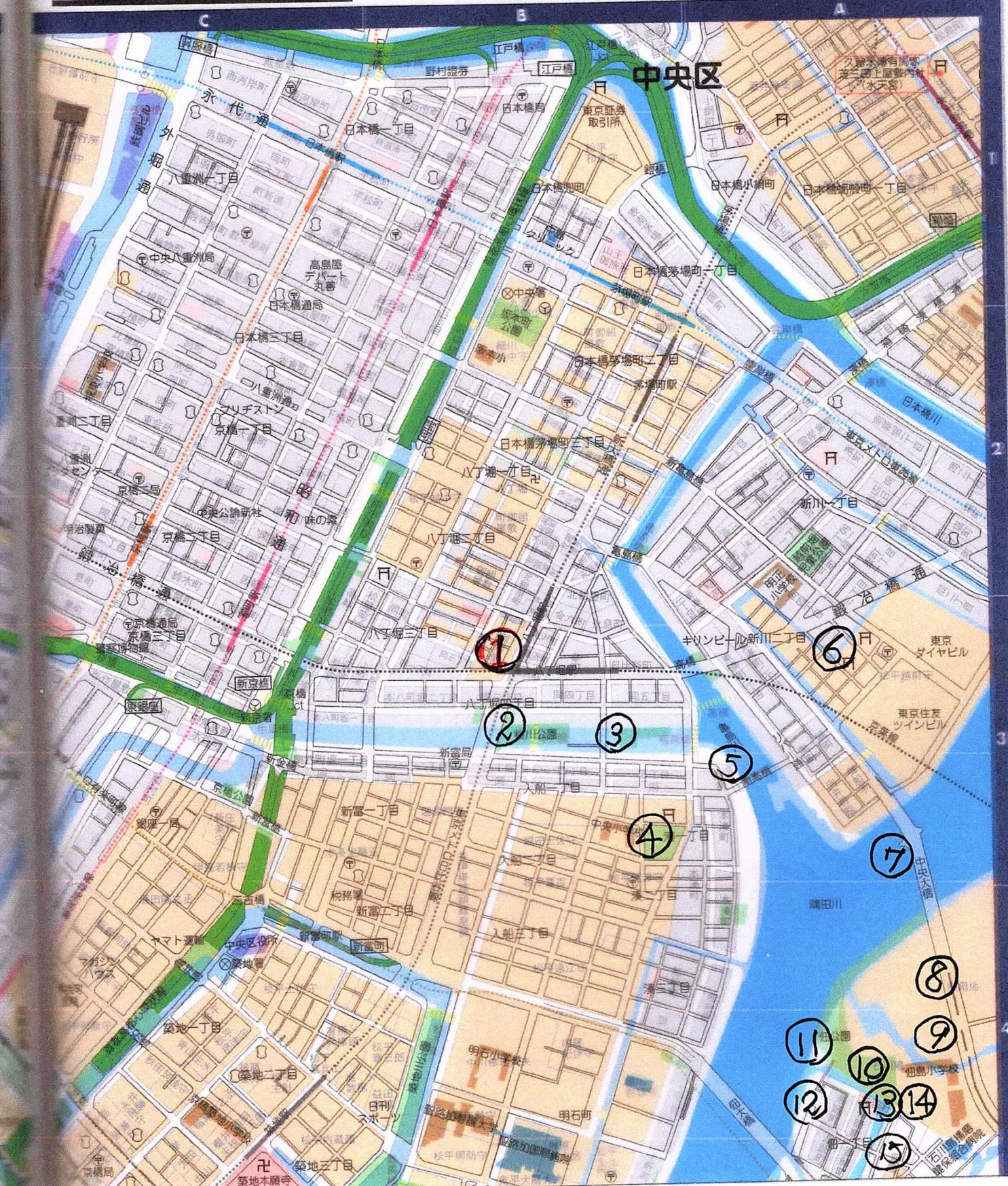


- * 元和3年(1617)に創建された京都西本願寺(浄土真宗本願寺派本願寺)の直轄寺院です。
- * 当初の坊舎は、浅草橋の近くの横山町付近にあったが、明暦の大火で焼失し、延宝7年(1679)に築地の地に御坊が落成した。落成時は現在の築地場外市場の辺りまであった広大な敷地でありました。
- * その広大な敷地は、大正12年(1923)に発生した関東大震災後の区画整理により半減してしまいました。
- * また、本堂も関東大震災に伴う火災で焼失してしまいましたが、建築家・伊東忠太の設計により、古代インド様式を模した石造建築物として、昭和9年(1934)に再建されました。
- * 本堂内陣は伝統的な真宗寺院の造りとなり、パイプオルガンや様々な動物の彫刻など見どころが多いです。本尊は「阿弥陀如来立像」です。
- * 平成26年(2014)には、本堂、門柱(正門・北門・南門)、石塀が、国の重要文化財に指定されています。
- * 境内にある史跡
 - * ① 間新六供養塔(赤穂義士) ② 酒井抱一墓(江戸後期に活躍した画家)
 - * ③ 土生玄碩墓(はぶげんせきー江戸後期の蘭方医)
 - * ④ 九条武子夫人歌碑
- * (西本願寺門主の次女・関東大震災後の西本願寺の中興の方)

0 100 500m

09

現代MAP No.15



19